

授業概要

科目名	高次脳機能障害学Ⅱ					授業の種類	演習	講師名				
授業回数	15	回	時間数	30	時間	1	単位	必修・選択	必修	配当学年 時期	ST2	前期
【授業の目的・ねらい】 患者さんに検査を実施していくうえでの心得を身につける 各検査を手順どおりに実施できる。検査結果を元に基本的な評価を行うことが出来る												
【実務者経験】 言語聴覚士として倉敷市立病院に勤務、失語症・高次脳機能障害・嚥下障害・構音障害・音声障害・発達障害のリハビリテーションに従事経験。												
【授業全体の内容の概要】 高次脳機能障害についてより具体的な内容を理解し、評価法についての基礎知識と検査バッテリーおよびそれらの実施法を知ることが出来る												
【授業終了時の達成課題（到達目標）】 各検査が何のために行うのかを理解し、手順どおりの実施が出来る。また、結果と高次脳機能障害を結び付けて考えることが出来る。患者さんに対する声かけや態度などを身につけることが出来る												
回数	講義内容										準備物(教材)	
1	検査の目的や取り組み方、評価選定、スクリーニング作成について理解できる										教科書等	
2	失行、失認の検査について実施と説明が出来る（SPTA/VPTA）										教科書、スライド資料、検査道具	
3	視空間認知の検査について実施と説明が出来る（VPTA、BIT）										教科書、スライド資料、検査道具	
4	注意機能の検査について実施と説明が出来る（CAT、TMT）										教科書、スライド資料、検査道具	
5	前頭葉機能の検査についての実施と説明が出来る（FAB/かな拾い）										教科書、スライド資料、検査道具	
6	遂行機能の検査について実施と説明が出来る（BADS）										教科書、スライド資料、検査道具	
7	記憶の検査について実施と説明が出来る（S-PA、RBMT）										教科書、スライド資料、検査道具	
8	記憶の検査について実施と説明が出来る（WMS-R）										教科書、スライド資料、検査道具	
9	知能検査について実施と説明が出来る（RCPM, コース）										教科書、スライド資料、検査道具	
10	知能検査について実施と説明が出来る①（WAIS）										教科書、スライド資料、検査道具	
11	知能検査について実施と説明が出来る②（WAIS）										教科書、スライド資料、検査道具	
12	スクリーニング検査を作成することを通して必要な内容を理解する										教科書、スライド資料、検査道具	
13	作成したスクリーニング検査をお互に行い、FBができる										教科書等	
14	分析結果をもとに訓練について立案する。										教科書等	
15	分析結果をもとに訓練について立案する。										教科書等	
	定期筆記試験											
【使用教科書・教材・参考書】 『標準言語聴覚療法 高次脳機能障害学 第3版』医学書院 『高次脳機能障害ポケットマニュアル 第4版』医歯薬出版 各マニュアルのコピー												
【準備学習・時間外学習】 実施した検査については、各自道具を使用しながら手順を確認してください。 マニュアルも必ず復習して読み込んでください。												
【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】 試験の結果を100点満点として成績を評価する。 試験は定期試験のみ実施し、60点以上の場合に科目を認定する。												